

## 野党共闘の力で、芝さん当選 共産党3 6へ倍増 比例・たけだ良介さん当選!

7月10日投票参院選挙



がんばった

### みなさんの声

白子駅での朝夕の選挙活動は少し大変でしたが、楽しかったです。選挙予想は、市民連合が出来、野党共闘が成立したにも拘わらず、不安一杯でしたが、皆で芝さん一筋に声を上げる日々は私に勇気を与えてくれました。何より、共産党の方々が、「芝ひろかず よろしく」と連呼する姿は、少しのせつなさや感動を覚えました。今まで共産党一途に応援してみえた人たちが、今は「子どもたちに平和な日本を残したい」ただそれ一点で、こんなふうに芝さんの応援をしている。当然と言えば当然なのでしょうが、私は毎回、心躍る思いで、横に並び、励まされていました。

選挙の結果は、芝さんは当選し、共産党の議席も増え、うれしい結果となったのですが、全国的にはますます厳しい状況となり、また、ハードルが上がってしまいました。憲法にあるように不断の努力なくしては平和は勝ち取れないということでしょうね。

ですから私はこれからも私なりに頑張るつもりです。

土師町・瓜生えみ子

(秘密保護法に反対する鈴鹿市民の会)

自民党が大勝したというが、徹底した改憲かくしを図った選挙戦でした。比例代表で自民を選んだ有権者は憲法や社会保障よりも「アベノミクス」を評価したとの出口調査結果が出ています。私たちは憲法問題を声を枯らして訴えたが、「アベノミクス」評価がこんなにはびこっていたなんて！改憲勢力が三分の二を上回ったことにはびっくり感や否めませんが、共同の調査では「よかった」が24%。「よくなかった」が28%と上回っています。また安倍政権下での改憲反対は50%に近く、賛成の35%を大きく引き離しています。今回投票した十代の若者が最も重視したのは「改憲」で、9条改正反対が実に68%を占めていることに今後の光明を見る思いです。

(鈴鹿福祉後援会 向井正美)



### 目を開き 耳を敬て・・・

「何でこうなるの？選挙結果の感想です」と知人から便りが届きました。私も数日「何で？ 何で？」が、頭の中を駆け抜けました。危機感から支援をお願いした友人たちに、さっそく手紙を出しました。

「国民投票をするのだから安心せよ・・・とばかりに改憲に向けた準備は着々とすすみ、国民が一気に反対側に立たないよう策を講じてくるでしょう。その口先に乗らず、目を大きく見開き、耳を敬(そばだ)て、真意はどこか、抜け穴が作られていないか、しっかりと見ていきましょう・・・」と。

知人の便りの最後には、こう結んでありました。「原発のこと、憲法のこと、明るい未来を子供たちに残したいですネ・・・」と。 伝え、広げていきましょう。

(国府町 主婦 伊藤多江子)



参議院選挙では野党共闘が一定の前進を果たす一方で改憲勢力も力を増した。大手新聞の中にも一路、改憲に向けた動きが加速するような論調も見られるが、「チョット待ってよ」と言いたい。選挙では改憲を争点にしないで「経済」を強調していたはずなのに。しかも実態からはずれた都合のいい数字だけをならべてなんかごまかしたいだったなあ。憲法のことって戦争放棄とか基本的人権の尊重とか、社会科で習った程度のことしか知らないけど戦後70年も平和が維持されてきた背景には憲法があったのはまちがいないと思う。それを数の力だけで押し通すのは絶対やめてもらいたいし、許せないことだ。野党共闘の力で平和憲法も守っていききたい。(T)

## がんばった みなさんの声

(つづき)



市民と野党が共同して自公政権に立ち向かうという歴史的選挙で、芝博一さんの当選を勝ち取れたことを心より喜びあいたいと思います。

大嶽委員長の「芝さんを我々の議員だと思って闘った」という発言は、共産党の大きな理想の下での選挙取り組みであったとあらためてかみしめています。

先日の市民連合みえの会合で、「衆参に向けて4協定に関わった企画を継続的に開催していく」とこと、「小選挙区単位で地域ごとに市民連合をつくっていく」ことが提案されました。

「名張や鈴鹿の市民連合のように」と言っていたのは、嬉しいかぎりでした。

新しい出発をしなければと思います。今までのご支援を心より感謝し、今後のご援助とご協力をよろしくお願い申し上げます。

(市民連合すずか  
山本あけみ)

明るく 元気に 思いっきり目立つように！！  
～参議院選挙での日本共産党鈴鹿市

女性後援会の取り組みを振り返って～  
鈴鹿の町に元気いっぱい日本共産党の姿を見せたい、わかりやすく共感を呼び、見える形で政策を訴えたい、見た目も感じの良い宣伝にしたい、できるだけ多くの女性後援会員に参加してもらえようになりたい、女性後援会だけでなく、みんなに呼びかけて総がかりで行動したい、という5点を確認してスタートしました。「憲法9条があるから平和なんだよ」のように自分たちで考えたプラスターは、字も大きく通りがかりに見ても良く分かったと思います。背中に「主権者は私だ 選挙に行こう」胸にJCPのロゴマークの入ったピンクのTシャツは良く目立ち、交差点をピンクで埋めているようでした。公示日までに計7回大型ショッピングセンター前で宣伝しました。宣伝日以外でも、できるだけ宣伝カーを走らせ、政策を訴えました。スケジュールのお知らせだけで参

加確認なしでの行動でしたが、どの場所でも多いときは25名ほど、少ないときでも10名近くの人が集まって下さり、明るく元気に取り組むことができました。

しかし、課題もいっぱいです。まずは、女性後援会の組織があいまいです。参加者が多かったといっても、まだまだ声がかかっていない人がたくさんいます。野党共闘の芝ひろかずさんが当選し、日本共産党も前進できたものの、改憲勢力が3分の2を占めた今、平和憲法を堅持するために、私たち女性後援会に出来ることを考えていきたいと思います。

(石田喜代子)



## 好天に恵まれた今年の平和行進 原水爆禁止（核兵器廃絶）を世界中に

今年の鈴鹿市内の平和行進のコースは、6月13日に四日市から高岡公園で引き継ぎ、鈴鹿市役所までの行進と、14日の鈴鹿市体育館から河芸を通り、津市役所西公園までの2日間でした。

幸いお天気が薄曇りや晴れの日でしたので、参加者も毎日40人を超えて多く、プラカードや黄色い風船を上げての賑やかで楽しい行進になりました。

原水爆の禁止は、太平洋戦争が終わった1946年の国連結成時の第1号決議にあります。日本で平和行進が始まったのは、アメリカのビキニでの水爆実験（19

54年）で、鰹マグロ漁船第五福竜丸の乗組員久保山愛吉さんなどが被爆し、マグロが放射能汚染で食べられなくなった4年後からで、もう58年目ですが、今では世界中の国々が核兵器保有国の消極的態度を乗り越えて、全面禁止に向かって国際協定を結ぼうと進んでいます。

今年の署名は、世界中で億単位を集めようという意欲的なもので、被爆者の皆さんが訴える署名になっています。是非皆さんのご署名をお願いします、街頭署名にも参加をお願いします。

（鈴鹿市原水協代表 辻井良和）



## 「原爆と人間」展

8月6日・9日が近づいてきました。今年は8月8日(月)～10日(水)の3日間、市役所1階市民ギャラリーで原爆写真展を開催します。

この写真展は原爆の被害を描いた絵や写真を展示し、核兵器の廃絶を目指す催しとして、30年ほど前から続いています。7年前から鈴鹿市の後援も頂いています。

朝ドラ「とと姉ちゃん」で焼夷弾の恐ろしさが放映されましたが、原子爆弾は「熱線」「爆風」「放射能」によって、一瞬にして広島・長崎を破壊し十数万の尊い人命を奪いました。

核兵器は「人道に反する」との考えが世界の常識になってきました。三たび核兵器が使われませんように。これは人類の願いです。

今年4月から、「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」がスタートしました。世界で数億を集めようというものです。署名集めにご協力下さい。

（鈴鹿市原水協 川北秀洋）





2000人が集まった市民連  
合みえの決起集会（7月3日  
四日市）演説する芝さん  
（左）には共産党大嶽三重県委員  
長・井上参議院議員の姿も  
撮影 萩森繁樹



森川ヤスエの

こころに夢を

## 参議院選挙を終えて

今年の選挙は初めての取り組みとして野党統一での選挙をたたかいました。安倍首相が数回、国会議員が連日のようにやってくるほど力を入れてた選挙区で市民と野党の統一が力を発揮し芝さんの当選ができたことは、三重県で活動するものとして党の威信が示せたと喜んでます。そして党が目標達成には至らなかったけれど倍化できたこと、沖縄で島尻さんの顔を見ないで済むことなど本当にうれしいです。しかし安倍政権を終わらせられなかったことは返す返すも悔しいです。マスコミの力の偉大さを見せつけられた思いでいっぱいです。（私はマスコミが選挙から逃げることで国民の知る機会を奪うという形で影響を与えていると思っています）その力のマスコミに左右されずに勝ち抜く方法を私たちは模索しなければならないし、どこから手を付けるべきかよくはわかりませんが、とにかくあきらめずに声を出し続けることがまず今できることだと思っています。



### 東部後援会の取り組み

安倍政権を終わらせようと東部後援会でも事前から本当によく頑張ってくださいと思います。

昨年の7月に始まった街角月一回の宣伝活動ではみなさんほとんどが一度は参加してくださいました。毎回必ず参加して下さる方もあり楽しかったです。今年の7月19日を一応区切りにしましたが、参加された方の感想は「続けるっていいね」。最近はそのに立っていたことを知って励ましてくれる方も出てきたよと嬉しそうに話していました。そして何より40代の中学生を持つお母さんが自分の言葉で思いを発信することの大切さを学んでくれて、街宣デビューしてくれたことがうれしいです。

彼女の訴えを少し。

「『選挙に行ってもどうせ何も変わらない、どうせ誰がやっても同じ、どうせ自民党だし』という友達もいます。『どうせ、どうせ・・・』そう思うのもよくわかります。でも行かなければ去年のように国民の声を無視し続け勝手になんでもかんでも数の力で強行されてしまいます。今までの投票率って50%台ですよ。残りの40台の『どうせ変わらない』とあきらめている私たちが選挙に行ったらどうなりますか、絶対に政治は変わると思います。私たちが変われば社会が変わる。7月10日は政治を変える社会を変えるチャンスです。私は子どもに将来もずーと平和な日本にすまわせてあげたい、希望と夢のある将来にしてあげたいので、野党共闘芝ひろかずさん、比例代表日本共産党を応援します。」

全文のせられないは残念です。

（市会議員 森川ヤスエ）





## はしづめ圭一の はじめの一步

### 養老町のオンデマンドバス

三重県玉城町のオンデマンドバスは何回も見学に行きましたが、同じ東京大学「コンビニクル」システムを利用している他の市町も見学したいと思い、ネットで調べて岐阜県養老町に行ってきました。日本共産党の町会議員・水谷さんに電話をお願いして、町当局の係長さんのお話を聞くことが出来ました。今回は書ききれませんが、驚くべき発見がいくつもありました。

養老町では、H6年から公共施設巡回バスを無料運行していること。なぜ無料と聞くと、「町民誰でも利用するから」と、無料が普通でしょう？というような答え。それでも利用者が減ってきたので、オンデマンド交通の検討を始めた。H24年から運行を始めたオンデマンドバスは、利用料は1回200円（但し各種割引有り）に、なぜ200円かと聞くと、「無料で

は申し訳ない」という町民の方の声なども検討して決めた。バス停留所の数も2倍以上に増やし、利用者も増え町民に喜ばれているが、運行経費も2倍になった、とのこと。どの自治体でも財政がきびしいおり、町当局や議会の反対はなかったのか？と聞くと、「町民の必要とする」ものに税金を使うのは当たり前でしょう、というふうな答え。町長の意向も働いているようだ。運行は民間事業者に委託しているが、他の市町では全て丸投げ委託の緑ナンバー車両が多いが、養老町では、町の考えを入れやすい道路運行法79条（市町村有償運行）にこだわり、白ナンバー車両で運行しているとのこと。鈴鹿市でも検討する価値は大いにありそうだ。

（市会議員 橋詰圭一）



### 生活相談活動の日々から

私が1987年に初めて市議選に出たときの肩書は、「日本共産党鈴鹿市生活相談所長」。活動を始めたのは86年11月からでしたが、5か月後に当選するまでの間にも、市民からの生活相談が次々に入ってきました。そりゃそうでしょう、この肩書のビラやリーフを鈴鹿中に何度も配ってもらったんだから。そのたびに、問題の解決に向けてあちこち駆け回り、調べ回り聞き回りして、何しろ「相談所長」ですから、「分かりません、出来ません」とは言えません。道路や排水、騒音の苦情から、詐欺の被害、サラ金、破産、福祉、病気、仕事・・・いろいろ勉強になりました。

そんな相談活動でKさんと知り合ったのも議員1期目のころで、以来25年ほどのおつきあいでした。いろいろあって孤独な老後を生きて



## 石田 秀三の かけある記

きたKさん、2年前に脳梗塞で倒れ入院、その後、高齢者施設に入っていました。7月に入って亡くなったと連絡がありました。幸いにも最近連絡がついた娘さんと、参列者3人のささやかな葬儀をして送りました。

これまで何人、いや10人以上の人のお弔いをしたのでは？それぞれの人の顔が目にかんできます。相談活動のゴール＝葬儀のお世話もしますが、むしろ生きている間にその人が幸せだ、生きていて良かったと言っていただけのような、そんな相談活動になるようにと思うこの頃です。

（市会議員 石田秀三）

## 新シリーズ

### 第3回 豊留さん

# 私の ふるさと

私は鹿児島県、薩摩半島の指宿出身で1950 - 60年代は段々畑で農作業をしながら大河ドラマの篤姫の里（今和泉）から九州一大きい池田湖から指宿温泉を巡る修学旅行や、観光旅行のバスの列を眺めていました。

当時は澱粉用の甘藷や小麦、大豆、菜種などの普通作が中心でしたが、1960年6月の新安保条約第2条により、以後輸入農産物でこれまでの作物では成り立たなくなりました。

園芸作物に切り替えるも、不安定な収入で生活が成り

立たなくなって地元で土木作業をし、また出稼ぎに出る人も増えてきました。借金返済のため私もそのうちの一人です。

大阪から愛知県、長野県、三重県と移動し、歳も35歳になったときある企業に落ち着き定年を迎えてから19年に。

（豊留 正利）



開聞岳

## 随想

40年余り働いてきて、先日退職しました。それまで何かとバタバタした暮らしでしたが、

今は時間もたつぷり。夜明け前、やおら起きだしコーヒをチビチビすすりながら「ラジオ深夜便」に聞き入り、朝飯のあとは「と姉ちゃん」といった具合の毎日。誠に優雅なもの。思えば就職のため故郷を離れ、不安を胸に白子駅のホームに降り立った日のことが懐かしく脳裏をよぎります。あれから、もう数十年もの歲月が過ぎてしまったとは…。その間には嬉しかったことや悲しかったこと、おびただしい体験のうえに今日があるのですが、総じて言えば「平凡な日々」であったようにも思います。しかしそれは「つまらない毎日」という意味ではなく、なによりも社会が平和だったという思いの裏返しかもしれません。わたしの親の世代



近鉄白子駅の旧駅舎 = 1978年撮影

は戦争のまつただ中であつて、戦地に駆り出された父は明日の命さえわからず、どんなにか「平凡な日々」を待ち望んだことか。それを思うと戦争のあやまちをくり返してはならない、いつも平和であつてほしい、と願わずにはいられません。なにかときびしい現実ですが、このあいだの参院選では野党共闘の取り組みなどが、よりよい社会にむけた運動のきざしも感じられました。この流れをもっと大きくしていけるよう私も微力ながら頑張りつつ、第二の人生輝いていきたいです。

（谷口 茂）

## お知らせ

# 秋の 後援会 バス旅行

11月20日(日)

岐阜県美濃地方 杉原千畝記念館など 詳しくは次号で…

